



2019年度

学生災害ボランティア・ネットワーク事業
報告書

VOLUNTEER REPORT 2019 4/13▶9/14

YURIAGE×KOBEXMABI

ひょうごボランタリープラザ・神戸市社会福祉協議会
日本財団学生ボランティアセンター・大学コンソーシアムひょうご神戸

2019年度 学生災害ボランティア・ネットワーク事業

2019/4/13～9/14

ひょうごボランタリープラザ・神戸市社会福祉協議会
日本財団学生ボランティアセンター・大学コンソーシアムひょうご神戸

3つの“つ”

- つたえる … 震災の経験と教訓を、現地の現状を
- つながる … 現地の住民、学生と
- つづける … 現地での活動をこれからも

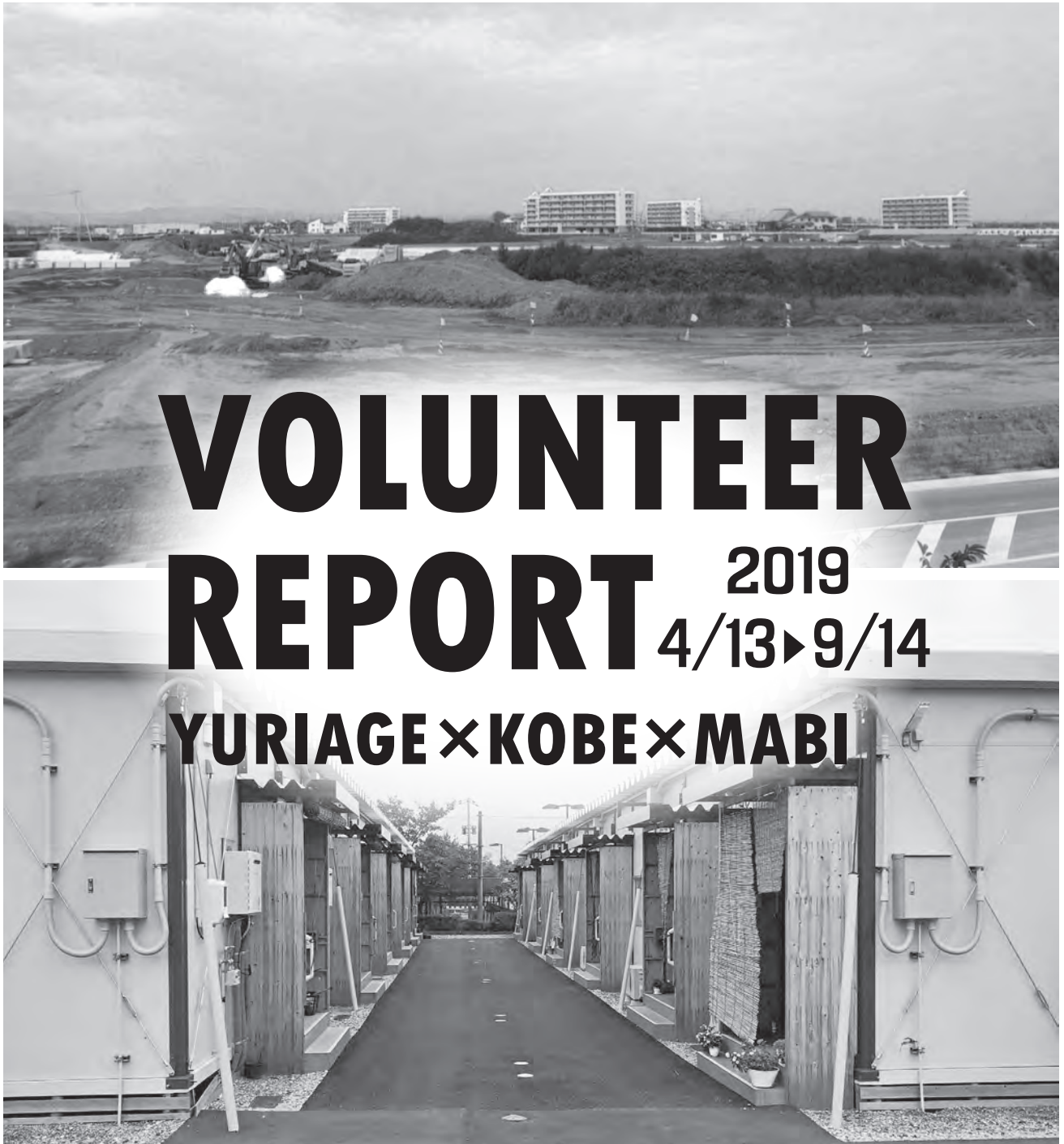
私たちのボランティア活動は、今年で9年目となりました。

活動当初から掲げてきた活動のコンセプトが、「つたえる・つながる・つづける」の「3つの“つ”」です。

尚絅学院大学の学生ボランティアとの活動を通じて受け継がれてきました。

これからも、この活動に参加する学生たちによって受け継がれていきます。





VOLUNTEER REPORT 2019 4/13▶9/14 YURIAGE×KOBE×MABI

CONTENTS

	(ページ)
ごあいさつ	02
活動の概要	04
長田まち歩き & 丹波スタディーツアー	08
宮城県名取市閑上での活動	09
岡山県倉敷市真備町での活動	10
スタッフ・お世話になった 方々からのコメント	12
学生スタッフ紹介	14
学生災害ボランティア・ネットワーク事業 参加者	15

ごあいさつ

大学コンソーシアムひょうご神戸
学生交流委員会 委員長代理
神戸親和女子大学 地域連携センター長
教授

大島 剛



今年も学生災害ボランティア・ネットワーク事業が無事に終了しました。49名の学生が5チームに分かれて、東日本大震災の被災地宮城県名取市閉上と西日本豪雨の被災地岡山県倉敷市真備町に行ってきました。昨年度参加の6名の学生スタッフに91名の応募者から選抜された精鋭の学生が、いくつもの研修やミーティングを通して大いに災害についての見識を広げ、それを若さと共に携えて現地に赴きました。名取では素晴らしいパートナーとして受け入れをいただいた尚綱学院大学、宿泊先の東北学院大学にお世話になりました。熊本に代わって行った真備町では、写真洗浄や被災した高校生のことなど新しい体験を通してより深い学びができたと思います。私が常にお話ししていたのですが、「ボランティア学生」が被災地に支援に行くのではなく、「学生ボランティア」が被災地から何を学び、それをどのようにこれからの世の中につなげていくかという意味が加味されていたと考えています。

もう1つ昨年と異なったのは、いつも着ていた黄色いピブスではなく、学生からの発案で

「神戸から 笑顔と元気 持ってきたで」

の文字を背中に負ったえんじのTシャツを作成しました。奇しくもその最上段の文字をつなげると持笑神（笑いを持つてくる神）となります。この神を背負って学生がどこまで活動できたかが問われるわけですが、実は彼らが笑顔を運んだのではなく、被災地の方々の温かい笑顔と心遣いに笑顔にさせていたと思っています。どちらがではなく、どちらの許にも神が降臨していたのではないのでしょうか。今年も残念ながら台風の大災害が発生してしまいました。災害大国日本の宿命ですが、笑顔でつなぐ人同士のつながりが少しでも逆境に打ち克つ力になるのではないかと思います。

受け入れていただいた被災地の皆様、学生の活動を支えていただいた共催団体の方々、そして若い力を燃焼させてくれた学生諸君に厚く御礼を申し上げます。

神戸市社会福祉協議会 地域支援部長

禰宜田 竜樹



「令和元年度 学生災害ボランティア・ネットワーク事業」に参加されたみなさん、5か月間にわたる長い期間大変お疲れさまでした。

9月14日に開催された「振り返りの会」では、ニュースで報じられる内容と被災地の現実との乖離や、被災された方々の「過去」と「現在」そしてその時どきの「心境」、あたり前に暮らせる日々のありがたみなど、現地に赴いたからこそ分かることの大切さや、災害を「わが事」として捉えなおした、参加されたみなさんの素直な感想が多く聞かれました。

この5か月間、みなさんは違う大学の学生とともに学んで活動し、そして、被災された方々、被災者支援に関わる方々など、この事業に参加したからこそ、出会うことのできた多くの人々とつながりができ、また様々な話を聞いたことと思います。そこで感じたこと、考えたことをこの5か月間だけのものとせず、家族との日頃の暮らしや同年代の友人など、みなさんとのつながりのある人々に伝え、一緒に考えることで拡げてほしいと思います。被災地に想いを馳せるとともに、自らの地域についても考える契機としてほしいと思います。

災害はその地域で将来に懸念されている課題を瞬時に顕在化させます。防災を考えるためには、地域の課題に着目する必要があります。みなさんが今回得た気付きをもって、これまでと違う視点から自らの地域を見つめてほしいと願います。

最後に、大学コンソーシアムひょうご神戸をはじめとする共催団体ならびに本事業にご協力いただいた被災地・関係団体のみなさんにあらためて感謝申し上げます。

兵庫県社会福祉協議会
ひょうごボランタリープラザ 副所長

芳永 和之



この事業では、これまでの災害被災地・被災者の現状などの事前の学習、災害や防災、さらには丹波水害被災地での学習を行ったうえで、東日本大震災と30年7月豪雨災害の被災地で活動を行いました。また、前年の参加学生が「学生スタッフ」としての活動を通じ、大学や地域の防災・減災活動のキーパーソンになっていただく取組でもあります。5月からの5ヶ月

間にわたる長期のプログラムに取り組まれた参加学生のみなさんには心より敬意を表します。被災地では復興に向けて、新たなまちづくりが進んでおりますが、防災、減災の課題に留まらず、少子高齢社会、過疎、コミュニティの脆弱化、災害時要援護者など平時には見えにくい課題が顕在化し、支援が求められているとともに私たちも今後備えて実体験による学びが大切となります。

阪神・淡路大震災を経験したひょうご神戸の学生として、この5ヶ月間の取組で学んだことを生かして、被災地での活動や現地の大学生とのネットワークづくりなどを通じ、被災地の復興支援、ひょうご神戸での今後の災害に備える活動や日常のボランティア・市民活動など、多くの人との多様な出会いの中で自分の価値観を広げ、いろんなことにチャレンジしてほしいと思います。最後に、学生たちを送り出していただいた大学コンソーシアム加盟大学をはじめ関係者の皆さん、現地で迎えていただいた被災地のみなさんに厚くお礼を申し上げます。

日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)
常務理事



澤田 佳彦

本事業の活動でお世話になりました宮城県名取市、岡山県倉敷市、兵庫県丹波市の皆様、参画された学生ボランティアの皆様、ご尽力いただいた共催各社をはじめ関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。Gakuvoでは、全国各地の大学等と連携して、学内外でのボランティア活動プログラムを開発、実施しています。ボランティアセンターなどでの課外のみならず、正規課目での活動も行い、学生が様々な種類の社会課題に取り組む機会を創出、支援しています。本事業では、学生ボランティアが、災害が起きた2つの地域において、自主的な企画を実施するというアウトプットもさることながら、そこに至るまでの研修も皆様のおかげで充実したものとなったと感じております。今年は、8月下旬の佐賀県を中心とした豪雨、千葉県南部を中心に大きな被害があった台風15号、東日本各地に甚大な被害をもたらした台風19号など、様々な災害が襲いました。今、現在も不自由な生活を強いられている方々が大量いらっしゃることでしょう。本事業に参加した学生には、災害ボランティアに参加することはもちろん、培われた想像力を駆使して、現地に行かなくても出来る支援や周りの人々や広く社会に伝えていくことを期待しています。

学生スタッフ代表
甲南大学4回生



中野 亜耶

今年の夏、大型台風が日本列島を襲い、全国各地で甚大な被害をもたらしたニュースは記憶に新しいと思います。皆さんは、そのニュースを見て、何を感じましたか？「怖い」「またか」…そして、その時感じた想いはいつまで覚えているのでしょうか。今年は、宮城県名取市閑上と岡山県倉敷市真備町で活動させていただきました。東日本大震災から8年。西日本豪雨災害からは1年半。メディアの露出が激減し、新しい災害の記憶に塗り替えられ、「過去」の記憶となっている気がします。この事業に参加した学生49名は、現地を訪れ、自分の目で、「被災地の今」を見てきました。公営住宅に移り住み、まちは元通りになったように見えます。しかし、心の面ではまだまだ復興しているとは言えません。真備町では、まだまだ仮設住宅での暮らしが続き、見えない未来を模索しながら、不安の中、それでも笑顔で私たちを出迎えてくれました。テレビや新聞では分からない事実を自分自身で感じる取組で、現状を自分事として捉え、考えることができました。そして、その感じたことを地元を持ち帰り、多くの人に伝えていくことが、学生の務めであると思っています。私たちの力は微力です。しかし、私たちが出来ることは微力ながらも、被災地を想い続ける。そして、微力ながらも被災地に行き続ける。すると、この微力がいつか誰かを勇気付けることができるのではないのでしょうか。「継続は力なり」という言葉のように、行き続けること、支援し続けることに意味があると思っています。今年度、この事業に参加してくれた学生の皆さん、来年度も継続してくれたら嬉しい限りです。私事ですが、1回生から続けてきたこの活動も今年で最後となります。今後もこの活動は後輩たちによって、より良いものとなることを願っています。この事業に携わり、学生の支援をしてくださいました多くの方々、私たちを受け入れてくださいました現地の皆様。この場をお借りしてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



活動の概要



■ プログラム名

2019 年度学生災害ボランティア・ネットワーク事業

ボランティアの趣旨・目的

阪神・淡路大震災を経験した地域として、学生が日常的な地域福祉や社会支援と災害時およびその後の災害支援とが連続性を持っていることを理解し、被災地での支援活動に取り組むことや復興支援の実情および今後の災害に備えた減災への取り組みを学ぶことにより、日頃から主体的・自発的にボランティアや社会活動に取り組む姿勢を身に付け、被災地支援・復興支援や今後の災害に備えることを目的とする。さらに事業活動を通じて県内の連携と共に被災地支援をはじめとする各地のネットワークを構築することを目指します。

共 催

ひょうごボランティアプラザ
 神戸市社会福祉協議会
 日本財団学生ボランティアセンター
 大学コンソーシアムひょうご神戸 学生交流委員会

実施日

2019年4月13日(土)～9月14日(土)

現地活動日程

宮城県名取市関上 8月24日(土)～8月26日(月) 2泊3日
 岡山県倉敷市真備町 8月31日(土)～9月1日(日) 1泊2日

参加学生数

一般学生 43名 学生スタッフ 6名 計 49名

■ 活動プログラム

■ 学生スタッフ研修

日時：4月13日(土)～14日(日) [1泊2日]
 場所：甲南大学 平生記念セミナーハウス
 目的：学スタ自身が今までの活動と自分自身について振り返る。
 災害ボランティアと本事業についての理解。
 学スタの位置づけについての理解を深める。

コミュニケーションについての理解。
 グループワーク。
 リーダーシップとフォロアーシップ。
 ボランティア支援とネットワーク。
 支援活動に向けての演習。

担当：ひょうごボランティアプラザ
 神戸市社会福祉協議会
 日本財団ボランティアセンター
 大学コンソーシアムひょうご神戸
 神戸親和女子大学、神戸女子大学、甲南大学
 講師協力：熊本学園大学 ボランティアコーディネーター
 照谷 明日香氏

オリエンテーション&第1回研修会

日時：5月18日(土) 10時00分～17時00分
 場所：ひょうごボランティアプラザ セミナー室
 内容

1. オリエンテーション・スタッフ紹介
 - (1) 主催者挨拶
 - ・大学コンソーシアムひょうご神戸 学生交流委員会
委員長代理 神戸親和女子大学 地域連携センター長 大島 剛
 - ・ひょうごボランティアプラザ 副所長 芳永 和之
 - (2) 学生災害ボランティア・ネットワーク事業の趣旨・スケジュールについて
 大学コンソーシアムひょうご神戸 学生交流委員会
学生ボランティア事務局 甲南大学
地域連携センター事務局 課長 松下 賢一
 - (3) 共催・学生スタッフ紹介
 学生スタッフ 神戸女子大学 2年 三鍋 佑奈
2. アイスブレイク・チームビルディング
 大学コンソーシアムひょうご神戸 学生交流委員会委員
神戸女子大学 教授 大西 雅裕
3. 第1回研修会「災害ボランティアと被災地支援」
 - (1) 「災害ボランティアと被災地支援を考える①」
ひょうごボランティアプラザ 前所長代理 鬼本 英太郎氏
 - (2) 「災害ボランティアと被災地支援を考える②
～東日本大震災と7月豪雨災害の現場から」
①東日本大震災・名取市関上地区の復興現場から
[現地の人々の視点で]
(講師)：名取市関上中央町内会
会長 長沼 俊幸氏



② 7月豪雨災害・岡山県倉敷市真備地区の現場から
〔活動支援者の視点で〕
神戸大学 ボランティアコーディネーター 東末 真紀

③ 座談会

・ひょうごボランティアプラザ 前所長代理 鬼本 英太郎氏
・名取市閉上中央町内会 会長 長沼 俊幸氏
・神戸大学 ボランティアコーディネーター 東末 真紀
・2019年度 学生スタッフ代表

甲南大学 4年 中野 亜耶

(3) 第1回ワークショップ「災害と被災地支援」

大学コンソーシアムひょうご神戸 学生交流委員会委員
神戸女子大学 教授 大西 雅裕

4. 事務連絡 甲南大学 地域連携センター事務室
課長 松下 賢一

第2回研修会

日時 5月25日(土)10時00分～17時30分

場所: ふたば学舎講堂(神戸市長田区)

内容

オリエンテーション

・スケジュール説明

神戸市社会福祉協議会 高石 憲志郎

・ふたば学舎について

(講師) ふたば学舎コーディネーター 山住 勝利氏
～映像・スライド学習～あのとこの、神戸・長田は～

①長田のまち歩き～実際に歩いてみよう、神戸・長田
のいまむかし～

②講義「ボランティア活動と地域福祉活動」

神戸市社会福祉協議会 高石 憲志郎

③講義「阪神・淡路大震災を振り返って」

～今の私に何が出来るか～

(講師) 日本公衆電話会 兵庫支部長/兵庫中央分会長

岡本 美治氏

④現地活動のチーム構成と振り返り

神戸親和女子大学 地域連携センター長 大島 剛

神戸常盤大学 ボランティアセンター長 永島 聡

第3回研修会

日時: 6月1日(土) 10時00分～17時00分

①人と防災未来センター見学

(シアター30分、館内見学45分、講話40分)

②JICA関西事業紹介・昼食(JICA関西会議室)

講師: 公益社団法人 青年海外協力協会

遊川 章宏氏

③魚崎の街並み景観の見学

講師: 魚崎町防災福祉コミュニティ 副会長

明珍 信宏氏

④特別講話

テーマ: 「魚崎町防災福祉コミュニティの活動について」

講師: 魚崎町防災福祉コミュニティ 副会長

明珍 信宏氏

場所: 東灘区魚崎町・横屋会館3階

⑤振り返りのグループワーク

甲南大学 地域連携センター 参与 久保 はるか

場所: 東灘区魚崎町・横屋会館3階



現地ヒアリング

目的：活動先となる地域の関係者や支援者に話を伺い、現地のニーズを把握してネットワーク活動の基礎材料とする。

1) 宮城県名取市

日時：6月15日(土)～6月16日(日) [1泊2日]

訪問先：ゆりあげ港朝市、せんだい3.11メモリアル交流館、
閑上中央集会所、尚絅学院大学(ゆりが丘キャンパス)

2) 岡山県倉敷市真備町

日時：6月22日(土)～6月23日(日) [1泊2日]

訪問先：真備保健福祉会館、元田集会所、まびシェア、市場仮
設団地、真備総仮設団地

第4回研修会(丹波スタディーツアー)

日時：2019年6月29日(土) 8時00分～18時30分

目的：丹波水害被災地の経験から学ぶ土砂災害に対する支援
と復興まちづくり

現地ヒアリング報告会 & 学生チームミーティング

※活動の詳細はP8参照

第5回研修会

日時：7月13日(土) 17時00分～20時00分

場所：甲南大学 岡本キャンパス iCommons 3階
P2・P3(プロジェクトルーム)

内容：1. 事前ヒアリング報告会

- ・宮城県名取市閑上での事前ヒアリングについて
名取市閑上ヒアリングチーム
- ・岡山県倉敷市真備での事前ヒアリングについて
倉敷市真備ヒアリングチーム

2. 今後の活動について

- ・各チームの活動内容について
- ・各チームの活動予算について

学生ボランティア事務局 甲南大学

地域連携センター事務局 松下 賢一

神戸市社会福祉協議会 広報交流課 高石 憲志郎

3. チーム・ミーティング

今夏の具体的な活動内容について考える

学生チーム活動内容プレゼンテーション

日時：8月3日(土) 13時00分～18時00分

場所：甲南大学 岡本キャンパス iCommons 3階
P2・P3(プロジェクトルーム)

内容：1. 特別講義

テーマ「被災された方と出会うこと」

大学コンソーシアムひょうご神戸

学生交流委員会 委員長代理 神戸親和女子大学

地域連携センター長 教授 大島 剛

2. 活動内容プレゼンテーション

①Nexus[倉敷市真備]

②サニー11[倉敷市真備]

③だんごきょうだい[倉敷市真備]

④KACKEY-S[名取市閑上]

⑤SevenStars[名取市閑上]

3. チームミーティング

※活動プレゼン時に指摘のあった事柄を中心に、
活動本番に向けての最終準備の詰めを行う。



現地活動

1) 宮城県名取市

日時：8月24日(土)～8月26日(月) [2泊3日]

連携先：尚絅学院大学、東北学院大学、東北大学

活動先：名取市内

宿泊先：東北学院大学旅館ボラステ

内容：①連携大学との合同研修会、交流会の実施

②連携先大学との連携プログラムの企画・実施

※活動の詳細はP 8～9 参照

2) 岡山県倉敷市真備町

日時：8月31日(土)～9月1日(日) [1泊2日]

連携先：倉敷市社会福祉協議会

活動先：真備総仮設、真備保健福祉会館、まびシェア

宿泊先：吉備青少年自然の家

内容：①仮設住宅での活動の企画・実施

②写真洗浄

③被災された高校生への支援を考える

※活動の詳細はP 10～11 参照

振り返り会 & 修了式

日時：9月14日(土) 13時00分～17時00分

場所：甲南大学 岡本キャンパス iCommons3階

P 2・P3 (プロジェクトルーム)

内容：1. 活動報告

Nexus [倉敷市真備]

サニーイレブン [倉敷市真備]

だんごきょうだい [倉敷市真備]

KACKEY-S [名取市閉上]

Seven Stars [名取市閉上]

※各チームの報告後、活動動画の放映(学生スタッフ)

2. 尚絅学院大学チームTASK I 活動報告

「尚絅学院大学チームTASK Iの東日本大震災発災から現在までの活動について」

尚絅学院大学 健康栄養学科 3年 逸見 彩絵

健康栄養学類 1年 加賀 佑香

3. 今後のいきごみを語ろう

4. 活動報告・今後のいきごみに対するスタッフからの講評

5. 修了証書、リーダー認定書授与

6. 各共催団体からのお知らせ

7. まとめ(総括)

大学コンソーシアムひょうご神戸 学生交流委員会

委員 神戸女子大学 教授 大西 雅裕

8. 閉会挨拶

大学コンソーシアムひょうご神戸 学生交流委員会

委員長代理 神戸親和女子大学 地域連携センター長

教授 大島 剛



長田まち歩き

日時：5月25日（土）10時00分～17時30分

行程：長田まち歩き→ふたば学舎での講義

目的：阪神・淡路大震災で甚大な被害を受けた長田のまちを実際に見て、当時の状況を知り、今後の防災につながるよう私たちにできることを考える。

●まち歩き

3グループに分かれて、長田のまちを歩きながら現地ガイドのお話をお聞きしました。阪神・淡路大震災から24年経った今でも被害の凄まじさを窺うことができました。その中でも商店街の復興の取り組みについて、とても印象に残っています。地域の人々との繋がりの強さがどれだけ大切かを改めて学ぶことができました。

●講義

テーマ①ボランティア活動と地域福祉活動

（講師）神戸市社会福祉協議会 高石 憲志郎

福祉制度がどれだけ整っていても、それが必ずしも復興の進捗に関わるわけではない。それよりも、平時から地域での繋がりを大切にしている地域は復興の進みも早いということを知りました。今後、災害時に備え、日頃から地域の繋がりを意識して生活しようと思いました。

テーマ②阪神・淡路大震災を振り返って

～今の私に何ができるのか～

（講師）日本公衆電話会 兵庫支部長 兵庫中央分会長

岡本 美治氏

阪神淡路大震災発生の翌日から瓦礫が散らばる寒空の下、地域の人々にホットコーヒーを提供したと語る喫茶カーナの岡本美治さん。たった一杯のホットコーヒーがどれだけ被災者の心を温め勇気付けたことか。誰もしていないけれど始めてみる。そんな勇気ある行動が、のちに地域の力となり復興への大きな一歩となります。地元の力でまちを元気にしたい。そんな強い思いを感じました。まちが復興するには地域の力が大切であると学びました。



丹波スタディーツアー

日時：6月29日（土）8時00分～18時30分

行程：丹波市復興講座→復興砂防公園視察→ひなたぼっこカフェの昼食（お弁当）→ワークショップ

目的：丹波水害被災地の経験から学ぶ土砂災害に対する支援と復興まちづくり

復興砂防公園視察

災害のあったエリア全体を見渡した時、当時の災害の様子はほとんど感じられないほど再生しているように感じました。しかし、砂防ダムの上まで登ってみると流木や、瓦礫等が散らばっており、被害の大きさを痛感しました。また復興砂防公園を視察し、豪雨がもたらす恐怖を知りそれを未然に防いだり、被害を軽減させるにはどうすればいいか考える機会となりました。



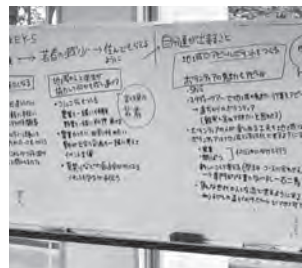
ひなたぼっこカフェの昼食（お弁当）

昼食で頂いたお弁当には丹波でとれた食材が入っており、おいしさはもちろん作って下さった方々の温かさを感じることができました。

ワークショップ

私たちは、「丹波をより良いまちにするには」というテーマのもと、地域の方々と一緒にグループディスカッションを行いました。

その中で、地域の方々には「人と人の繋がりを大切にすることがわかりました。その繋がりをより深めるためには、世代の垣根を超えた交流が必要であると感じました。また災害が起こる前の取り組みとして、地域内での密なコミュニケーションが重要であることを学びました。



宮城県名取市閉上での活動

長沼さんの講話

日時：8月24日（土）11時00分～16時00分
場所：閉上日和山周辺、尚綱学院大学地域連携交流プラザ
人数：神戸の学生18名、尚綱学院大学4名
趣旨：災害から8年以上が経過し、5月にはまちびらきも行われた閉上地区。
震災当日の状況や被災地の変化を知り、あの日あの時を学びなおし、現在の被災地の課題を知る。
活動詳細：閉上日和山・慰霊碑周辺でのフィールドワーク、
長沼さんの講話

感想・学び

長沼さんのお話とともに見る閉上。初めての人も二度目の人も様々な“想い”を感じました。たくさんのお話を聞く中で、正確な情報がいかに大切かを、そして誤った情報によりたくさんの命が実際に奪われたことを学びました。しかし、いざ津波が来ている状況で冷静な判断をくだせるかといわれると正直わからない。自分の一言で多くの命を救うこともできれば、多くの命を奪うこともある。そのことを忘れてはいけなかったと思います。



住民交流会

日時：8月25日（日）13時00分～15時30分
場所：閉上中央集会所
人数：神戸の学生18名、尚綱学院大学6名、東北大学2名
趣旨：閉上中央第二団地では町内会の結成や地域住民の主体的な地域づくりが始まりつつある。新しいコミュニティを形成しながら、多様な世代・住民の参加を促すきっかけとして、住民の方々と交流する。
活動詳細：茶話会

成果と課題

今回は大きなイベントを企画せず、関西のお菓子をツールとして持参しました。イベントがないことで住民の方々が来てくださるか不安でしたが、神戸から学生が来る。それだけでも十分きっかけになることを実感しました。学生の私たちが足を運ぶことで住民の方も積極的に参加して下さいました。学生が多かった為一人ひとりが住民の方々とじっくり向き合うことができました。また尚綱学院大学の学生の方々に多くのサポートをしていただきました。私たちが周りを見て臨機応変に動けなかったことが反省点であり課題でもあります。

感想

大きなイベントが無いからこそ、会話に集中できた2時間でした。一人ひとりが住民の方々と真摯に向き合い、現地の声に耳を傾け、被災地の今に向き合うことができる時間となり、住民の方々がさまざまな想いをもち生活をしていると感じました。子どもから高齢者まで幅広い世代の多くの方々に来ていただき、今回の交流会が新たな交流のきっかけになっていると嬉しいです。



大学間連携研修・交流プログラム

日時：8月26日（月）9時00分～16時30分
場所：尚綱学院大学 ゆりが丘キャンパス
人数：神戸の学生18名、尚綱学院大学4名、東北大学2名
趣旨：二日間の活動を踏まえ、復興とは何か震災伝承や大学生として何ができるかを共に考え意見交換し学びを深める。

成果・学び

2日間を振り返り「復興ってなんだろう」「私たちにできることはなんだろう」をテーマにワークショップを行いました。4グループに分かれ意見交換をしましたがどのグループも復興に終わりはないという結論に至りました。復興とは、常に追いついていくもの。そして、この問いに対してこれからも考え続け、次の世代へとつなぐことが何よりも大切だと考えます。今の私たちにできることは震災を忘れず、学び伝え続けること。学生という立場でできることは限られています。被災地を思い、言葉で伝え続けて行きたいと思います。またワークショップを通して答えのない問いに向き合い続けることの大変さも実感しました。



真備総仮設団地での活動

日時：8月31日（土）10時00分～15時00分
場所：真備総仮設団地 集会所、談話室

チーム Nexus

人数：11名

趣旨：アサガオ風鈴作りを通して学生一人一人が住民の方と交流を図り、また住民の方同士の交流のきっかけの場を作る。

活動詳細：午前：ちょこっとボランティア（主に換気扇掃除）
午後：アサガオ風鈴作り、昔遊び

成果と課題

チームの目標でもあった「学生が主体的に行動し、住民の方とコミュニケーションを図る」ということを全員が心がけて活動することができました。アサガオ風鈴作りでは、子どもから大人まで楽しみながら作成でき、コミュニケーションのツールとして作用したことを実感できました。

感想

私たちのグループは準備のためにミーティングを重ねました。そのため、当日はスムーズに活動することができました。午前の活動では、素早くチームに分かれ、お宅を訪問し、お手伝いできることを聞いて回り、その際もグループリーダーを設け、リーダーを中心に役割を決め、作業に集中しすぎないよう気をつけて活動を行いました。午後の活動でも一人ひとりが役割を把握できていた為、主体的に住民の方々と交流することができました。活動を通して事前準備の重要性を実感しました。



チーム だんごきょうだい

人数：11名

趣旨：自主的に活動に取り組んでいく中で、私たちができるボランティアの形を考え、住民の方の心に寄り添うことで、かけがえのない時間をつくる。

活動詳細：午前：茶話会、変わり種ピザ

午後：マグネット作り、だんごに願いを、戸別訪問

成果と課題

私たちが仮設住宅に到着した時、既にたくさんの住民の方々が来ていました。当初予定していた活動スケジュールを変更することになりましたが、学生も住民の方も一体となり、会話することができました。変わり種ピザという斬新なアイデアで盛り上がり、一緒に調理をすることで親密になり、住民の方々の本音を聞くことができました。課題としては、学生間の役割分担等が十分できていなかったことが挙げられます。午後は、マグネット、ペン立てなどの工作を一緒に行いました。集会所に出てこれない住民の方々には戸別訪問をして、お話をすることができました。

感想

午後の活動が始まる前に、チームミーティングを行い、反省点や改善点を午後の活動に活かすことができました。活動の最後には、私たちのチーム名にちなんで「だんごに願いを」という企画を行い、活動の感想や、コメント、メッセージ、自分の願いなど自由に書き記し、思い出を心に刻むことができました。双方にとって、かけがえのない時間をつくることができたのではないのでしょうか。



チーム サニーイレブン

人数：9名

趣 旨：焼きそばを一緒につくることで住民の方とのコミュニケーションをはかり、住民同士の交流のきっかけとなるような場をつくる。

活動詳細：午前：焼きそばづくり

午後：貼り絵づくり、すごろくトーク

成果と課題

チーム目標である「つなげる三間(時間・空間・仲間)」を全員が意識して活動することができました。焼きそば作りでは、住民の方からアドバイスをいただきながら、岡山名物である「蒜山焼きそば」が完成しました。焼きそばはとても好評で、楽しく会話をしながら調理をし、交流することができました。学生は役割分担がしっかりできていたこともあり、スムーズに動くことができました。

感想

初めてボランティアに参加した学生も多く、はじめは緊張からか、自分の役割をこなすことに精一杯だったように感じました。しかし焼きそばというツールを通じて、住民の方との会話も弾むようになりました。そして貼り絵づくりや、すごろくトークなどのツールを用いてコミュニケーションを図ることができました。これらの活動を通じて、私たち学生が住民の方々からたくさんの笑顔と元気をいただきました。



真備写真洗浄

日時：9月1日(日) 10時00分～12時00分

場所：真備保健福祉会館

成果と課題

写真洗浄に関するドキュメンタリー番組を見せていただきました。水に浸かって泥だらけになった写真。捨てるか否か、最後の望みとして真備洗浄に依頼を出す。綺麗になって手元に戻ってきた写真は以前のように元通りにこそなりませんが、その写真はその人にとって、災害の記憶も含め一生の思い出となると感じました。そんな写真には、一枚一枚ストーリーがあり、たくさんの思い出が詰まっている大切な物と考えながら写真洗浄に携わることができました。

感想

写真のデータ化が進み、写真アルバムの存在を蔑ろにしてしまいそうな現代。日々の中で、写真アルバムという存在は忘れられているのではないのでしょうか。幸か不幸か、災害は人々に写真アルバムの存在を思い出させました。そして、過去の思い出を一時にして水浸しにしました。写真洗浄はそんな思い出を蘇らせる力があります。沢山の人が手間隙をかけ、想いを込めて写真を洗浄する。元通りにはなりません、元通り以上にその写真は生き生きと輝いて見えました。そんな作業に携わらせていただいたことが、大変光栄でありがたく思います。



講義「被災した高校生の支援について考える」

日時：9月1日(日) 14時00分～

場所：まびシェア

テーマ：被災された高校生への支援を考える

講師：岡山県立矢掛高校 地域協働活動コーディネーター

井辻 美緒氏

成果と課題

講義の中で、被災した高校生への支援の不足、特に精神的なケアが行き届いていないということを知りました。高校に通うだけで一苦労、家にも学校にも居場所がなくなった彼らに対し私たちができることは、寄り添い、話を聞くことだと思いました。そして、この現状を多くの人に知ってもらうためにも、発信していくことが重要だと思いました。

感想

高校生は、子どもと大人の狭間で揺れ悩み、多くの不安やストレスを抱えています。災害時の支援というのは、どうしても高齢者や子どもが優先されます。被災した高校生にとっても非常に生き辛い環境となるため、そんな高校生が悩みを打ち明けられるような、不安を解消できるような支援を考えることが必要であると感じました。また講義の中で、「当たり前は当たり前ではない。今を大切に生きていく。」というお話がありましたが、今の何ん自由のない生活は当たり前ではないということに自覚し、日々を大切に生きていこうと思いました。



スタッフ・お世話になった 方々からのコメント

尚綱学院大学 連携交流課長

佐々木 真理

東日本大震災から8年半という年月が過ぎた今、私たちにいったい何ができるのか。皆さんはこのテーマに悩み、考え、挑まれたことと思います。活動の成果は決してすぐに形となって見えるわけではなく、とても小さいものかもしれません。しかし、小さな力も“協力”と“継続”を経て、いつか必ず良い形となって現れてくると思います。この夏の「人と繋がり、支え合う」という“実体験”を今後の暮らしにぜひ活かしてください。感謝。

尚綱学院大学 連携交流課

佐々木 未央

今年も名取市に来ていただきありがとうございました！私自身も皆さんから学ぶことが多い時間となりました。本番の3日間だけでなく、住民さんのことを一番に考え、TASKIの学生と一緒に悩みながら準備を進めた期間も濃い時間だったと思います。今回のプログラムをきっかけに、災害時に関わらずどのような場面でも「今、自分にできることは何か」を考え、周りを巻き込みながら主体的に動く存在となることを期待しております。

熊本学園大学 ボランティアセンター
ボランティア・コーディネーター

照谷 明日香

短い期間でしたが、寝食や活動を共にし、皆さんと濃厚な時間を共有することができました。益城町にて未だ残る震災の爪痕を前に自治会長さんが語ってくれたこと。仮設住宅、災害公営住宅、戸別訪問等でふれあった住民の方の想い。学生の皆さん一人ひとりが様々な視点から物事を視て感じてくれたと思います。最終日、公営住宅にて丁寧な姿勢で活動する姿は、やはり別格だと感じました。これからも神戸の経験を継承しつつ新しく未来へ紡いでいく活動を続けてください。

倉敷市社会福祉協議会 地域福祉課 主任

山本 知穂

元気と若さを真備町に運んできてくださって、本当にありがとうございました。学生さんの素直な視点ならではの”気付き”に、私自身も新しい学びを得ることができました。ぜひ、これからも様々なボランティア活動に取組んでもらえれば幸いです。そして、機会があればまた真備町に足を運んでいただくと嬉しく思います。

兵庫県専修学校各種学校連合会 事務局長
ひょうごボランタリープラザ 前所長代理

鬼本 英太郎

5か月にわたるプログラムへの参画、ありがとうございました。そして、お世話になりました。この活動を通じ、多くの人と様々な地域や暮らしの実情に出会ったと思います。そこから新たな学びを獲得し、そして愉しんでもらえたのでしょうか。「災害復興ボランティア」に限りません。皆さんにとって、このプログラムが、社会の多様な価値を認め、その創造に参画するきっかけとなれば、うれしいです

神戸市社会福祉協議会 地域支援部 広報交流課課長

唐津 史朗

倉敷市真備町で被災した方々から学ばせて頂くという貴重な経験をさせて頂きました。

この事業を通してみなさんは「平時のつながりが被災時に生きる」ことを学ばれました。自然災害が多発する昨今、これからの学生生活・社会人生活において、様々な「つながり」を大切に、地域社会に目を向けてほしいと願っています。

神戸市社会福祉協議会 地域支援部 広報交流課 主事

高石 憲志郎

約5か月間の活動、本当にお疲れ様でした。このプログラム以降も「何か自分にできることを続けたい」、「地元の地域活動に参加したい」、「被災地支援を継続していきたい」と仰って下さったみなさんの真剣な表情がとても印象に残っています。その熱い気持ちを忘れず、それぞれのフィールドで“若き担い手”として活躍して下さることを願っています。

日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)

宮腰 義仁

神戸市、丹波市、倉敷市真備町などで、学生たちといっしょに過ごしました。初めて出会う現地の方々からご配慮をいただいたことに感謝の念を抱きつつ、学生や若者という存在が持ちうる力をあらためて実感しました。本事業に参加した学生には、ボランティアを含む社会課題解決へアクションされることを期待します。そして本事業を進める中で自分や社会へ感じたであろう後悔や疑念こそ大事にしてください。また一緒に活動しましょう。

甲南大学 地域連携センター参与
法学部 教授

久保 はるか

このプログラムでは、震災復興についての学びとボランティア経験の両方を重視してきました。皆さんは、このプログラムに参加してたくさんのかんじ、考へたと思ひます。それを大事にしてください。地域では、皆さんの若い力が求められています。また昨今、気候変動の影響で豪雨や大型台風の頻度が増しており、今後、様々な所でボランティアの必要性が高まるでしょう。是非、今回の経験を次の行動に活かしてください。

神戸女子大学 文学部 教授

大西 雅裕

5月の研修からスタートし、いろいろな想いを持たれて本事業に参加されたと思ひます。どの程度の評価点をつけられますか？非常に厳しい評価をする人、また「学生ボランティア」として共感し、満足のいく評価をする人もいます。これまた人それぞれ良いと思ひます。その評価が今後の皆さんの人生にとってどうであるかは、事実は変わりませんが、振り返る度に評価は変化します。その時に自分事としてしっかりと問うてください。

神戸常盤大学 ボランティアセンター長
保健科学部 講師

永島 聡

今年度は私自身が初参加であり、学生諸君とともに学ばせていただく立場でした。そして全てが身に染みる体験でした。貴重な時間を共有できたこと、

感謝しています。

閑上での地元の皆様との交流。皆さん本当に自然に交流できていましたね。何気ない普段の話題から当時の実体験まで、きっと内容は様々であったでしょう。それらの会話全てに意味があったと思ひます。地元の皆様にとっても、学生諸君にとっても。

兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授

青田 良介

活動お疲れ様でした。色んなことを学べたでしょうか。思いやりの気持ち一支援する側だけでなく、被災者の方々も我々に配慮してくれていました。双方向だからこそ絆が生まれます。防災への正しい理解一事前に調べておくと、被災者のお話に様々な課題が隠れていることがわかります。主体性一自分で切り拓くからこそ、気づかなかったことが見えてきます。この3者は強く結びついています。充実した大学生活を送るよう祈っています。

関西学院大学 研究推進社会連携機構 社会連携センター

谷口 雄亮

約5か月間の活動、本当にお疲れ様でした。この事業に参加して、たくさんの方々のか「想い」に触れ、普段の生活では得られない学びや経験をされたことと思ひます。皆さんの笑顔と元気は、現在も倉敷市真備、名取市閑上の地で現地の方々のか心を繋いでいっているはずです。これからも今回の学びや経験、そして笑顔や元気をより多くの人に届け、繋いでいってください。皆さんが頼もしく成長していく姿をそばで見させていただき、ありがとうございます。今後ますますのご活躍を期待しています。

甲南大学 地域連携センター事務局 課長

松下 賢一

今年度は、9年連続の宮城県名取市閑上と新たに岡山県倉敷市真備での活動になりました。

今年度は、特に現地に赴くまでの約4か月間、様々な研修プログラムを準備し、その都度、振り返りの時間を設けることにより、この活動の意味について、常に学生の皆さんにしっかりと考へて欲しいという思いで、進めてきました。

参加した学生の皆さんにはこの活動での経験や出会い等、是非とも次の何かに活かして欲しいと思ひています。期待しています。

We are 学生スタッフ

～6人の愉快的仲間たち～

★ 学生スタッフに参加したきっかけ
☆ 何かひとこと
教えて!



中野 亜耶

甲南大学
4回生



★1回生の冬からこの事業に携わってきました。そして、ついに今年が最後の年です。大学生生活4年間、この事業に骨を埋めるつもりでしたからです。

☆私はこの事業に出会い、とても成長したと感じています。そして、何物にも代え難い、かけがえのない経験をすることができました。今、この報告書を読んでいる学生の皆さん、大学生生活何かしたい、成長したい、そう思っているなら是非この事業に足を踏み入れてみてください。これまでお世話になりました多くの方々この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

下村 衿加

神戸海星女子学院大学
4回生



★ボランティアに参加をして3年が経ち学生生活最後ということもごさいますが、今まで多くの先輩方に教えて頂いたことを先輩に伝えて繋げたいと思い参加致しました。

☆今このように活動出来るのは多くの方の協力があり成り立っています。この場をお借りして感謝のお言葉を申し上げます。ボランティア事業に自ら参加して下さいました学生の皆さんありがとうございます。そしていつも支えて下さったスタッフの皆様本当にありがとうございました。

田淵 日和

神戸松蔭女子学院大学
3回生



★昨年度も学生スタッフとして参加しました。活動をする中で、震災について少しでも興味を持ってくれる人を増やしたい。今の被災地を知ってもらいたいと思い昨年に引き続き学生スタッフになりました。

☆この活動を通して現地に赴き、被災地の現状を知る大切さを始め、人のかかわり方も学ぶことができました。また、学生スタッフをすることで、学生ボランティアとは違った大変さもありますが、自分自身の成長を実感することもできました。本当にありがとうございました。

新保 ひかり

神戸常盤大学
3回生



★昨年度の活動に参加し、その自分の経験を新たな学生ボランティアの活動に活かせるように頑張りたいと思い学生スタッフになりました。

☆最初は感じたことを伝えたり、話し合ったりすることは苦手でした。でも、そこから学びが深まっていくことで楽しいと思えるようになりました。これを読んだ学生の皆さん、何かやってみたいという気持ちを大切に、一步踏み出してこの活動に参加してください!

三鍋 佑奈

神戸女子大学
2回生



★昨年学生として参加した際に、研修会や事前準備を通して現地に行くことの大切さ、直接目でみて肌で感じたことを、もっと多くの学生に知ってもらい繋げていきたいと思ったから。

☆私はこの活動を通して身についたことが沢山あります。今後の学生生活や社会でも活かせることができる貴重な体験でした。大学生の今だからこそできる学生ボランティアに、是非色々な人に挑戦してもらいたいです。ありがとうございました。

中野 実菜

神戸女子大学
2回生



★昨年一般学生としてこの活動に参加し、学んだことを伝える大切さを実感しました。そして今年は、違う視点から自分なりにこの活動を続けたいと思い、学生スタッフに参加しました。

☆災害を通じて私たちができること。知る、学ぶ、伝える、そして実践する。この活動を続けるのも実践のひとつだと思ったり、日々の意識を少し変えるだけで実践に結びつくと思います。この活動で学んだことをぜひ実践できるような人になってほしいなと思います。1年間ありがとうございました。

ひょうごボランティアプラザ・神戸市社会福祉協議会
日本財団学生ボランティアセンター・大学コンソーシアムひょうご神戸共催

2019年度 学生災害ボランティア・ネットワーク事業 学生チーム

岡山県倉敷市真備町での活動チーム (3チーム31名)

宮城県名取市関上での活動チーム (2チーム18名)

チーム名	氏名	学校名	学年
Nexus	菊地 欽	兵庫教育大学	M1
	下村 衿加	神戸海星女子学院大学	4 *
	市島 香里奈	関西学院大学	3
	西森 晶己	関西学院大学	3
	大谷 知加	神戸常盤大学	2
	安原 楓	神戸女子大学	2
	泉 菜緒	神戸海星女子学院大学	1
	越水 真希	甲南女子大学	1
	後田 将人	関西学院大学	1
	谷口 詩音	神戸女子大学	1
	曾我部 絢	神戸女子大学	1
	だんごきょうだい	中野 亜耶	甲南大学
岡部 梨花		関西学院大学	3
緒方 慶一		神戸学院大学	2
花谷 美郷		神戸海星女子学院大学	2
三鍋 佑奈		神戸女子大学	2 *
茶谷 まりん		神戸女子大学	1
照山 夏音		神戸女子大学	1
長谷川 雄弥		神戸市外国語大学	1
眞野 梨穂奈		神戸海星女子学院大学	1
森本 彩乃		頌栄短期大学	1
山科 優羽	甲南女子大学	1	
サニーイレブン	北坂 幸恵	関西学院大学	3
	桐山 知己	甲南大学	3
	蔭山 未悠	関西学院大学	2
	坂口 菜々子	甲南大学	2
	高田 明宏	甲南大学	2
	中野 実菜	神戸女子大学	2 *
	松岡 若奈	神戸女子大学	1
	泉 菜実	神戸海星女子学院大学	1
藤井 夏音	神戸海星女子学院大学	1	

チーム名	氏名	学校名	学年
K A C K E Y I S	中村 希	関西学院大学	4
	増田 怜奈	神戸女子大学	3
	寄光 里輝哉	神戸学院大学	3
	田淵 日和	神戸松蔭女子学院大学	3 *
	崎田 莉子	甲南女子大学	2
	高橋 美羽	神戸松蔭女子学院大学	2
	中村 華菜	神戸常盤大学	2
	井上 侑子	甲南大学	1
	北出 凌大	関西学院大学	1
S e v e n S t a r s	細谷 綾香	神戸松蔭女子学院大学	4
	竹村 茉希	甲南大学	3
	田村 匠	甲南大学	3
	新保 ひかり	神戸常盤大学	3 *
	岡田 美優	甲南女子大学	2
	中村 麻梨奈	神戸松蔭女子学院大学	2
	齊藤 万莉	甲南大学	1
	浜田 夕夏	甲南女子大学	1
松木 温寛	甲南大学	1	



*は学生スタッフ

共催団体スタッフ一覧

●ひょうごボランティアプラザ

副所長 芳永 和之
事務局長 松原 富美子
事務局次長 沖本 通浩
主事 佐藤 哲也

●神戸市社会福祉協議会

地域支援部長 禰宜田 竜樹
広報交流課長 唐津 史朗
主事 高石 憲志郎

●日本財団学生ボランティアセンター

常務理事 澤田 佳彦
宮腰 義仁

●大学コンソーシアムひょうご神戸

学生交流委員会

・委員長校 神戸親和女子大学 地域連携センター長 教授 大島 剛(委員長代理)
・副委員長校 甲南大学 地域連携センター 参与 教授 久保 はるか(副委員長代理)
地域連携センター事務局 課長 松下 賢一

・ボランティアユニット校

神戸女子大学 文学部 教授 大西 雅裕(学生交流委員)
神戸常盤大学 ボランティアセンター長 講師 永島 聡(学生交流委員)
兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授 青田 良介
関西学院大学 研究推進社会連携機構 社会連携センター 谷口 雄亮
神戸大学 ボランティアコーディネーター 東末 真紀

大学コンソーシアムひょうご神戸事務局 北川 奈緒美

計 18名

神戸から
笑顔と元気
持ってきたで

大学コンソーシアムひょうご神戸

2019年度
学生災害ボランティア・ネットワーク事業
報告書

VOLUNTEER REPORT ²⁰¹⁹ 4/13▶9/14

本活動は、兵庫県「2019年度 復興サポート事業」(宮城・岡山)
「被災地「絆」ボランティア活動支援事業」ボランティアバス助成事業の
助成を受けて実施しております。

発行日：2019年12月

発行：ひょうごボランタリープラザ・神戸市社会福祉協議会
日本財団学生ボランティアセンター・大学コンソーシアムひょうご神戸
印刷：イワサキ出版印刷有限公司